

【32】平成30年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>整形外科学 (Orthopedic Surgery)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>仁木久照</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>整形外科学は運動器の機能障害を主たる対象とし、その病理と治療法を研究し、かつ、これにともなう全身的、精神的影響にまで考慮をはらう学問である。</p> <p>運動器は四肢、体幹を含むものであるが、これらに要求される機能は運動と姿勢保持の2つである。</p> <p>解剖学で運動・支持器官といえば、骨・関節・筋・腱などであるが、整形外科学では、さらに脊髄・末梢神経、さらに四肢の血管に関する問題も含まれる。</p> <p>治療法で観血的・非観血的、すなわち手術療法と整形外科的保存法に大別される。近年、手術療法には様々な生体内材料が用いられるようになり、これら生体内材料の強度、使用方法の適正化には工学的知識が要求され、学識領域としての医用生体工学が発展しつつあり、この領域の理解も必須である。整形外科的保存療法もかつては整形外科的理学療法が主体を占めていたが、現在ではリハビリテーション医学としての理学療法、作業療法が広く行われるようになっている。したがって全人的医療、包括的医療を実施する上で、整形外科学とリハビリテーション医学とは不即不離の関係にある。</p> <p>このように広範囲に及ぶ整形外科学全領域にわたる進歩を容易に理解し、吸収する能力を養う素地をつくるのが大学院学生には必要となる。さらに個々の大学院生には臨床、基礎に関連した研究テーマを与えて、この分野を習得することが目標となる</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨粗鬆症性脊椎骨折後に起こる姿勢異常が肩前方挙上に及ぼす影響について 2. 仮骨延長における力学的強度向上の探索 3. 手関節疾患領域の解剖学的研究 4. 肘関節疾患領域の解剖学的研究 5. 筋肉生理の基礎的研究 6. 転倒予防の臨床的研究 7. 後脛骨筋機能不全の臨床研究 8. 同種移植の免疫応答の基礎的研究など
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>事前に参考資料を読むこと</p>

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科外傷学概論 実習		必修/選択 必修
担当教員	松下和彦・赤澤 努	担当教員連絡先	内線3435
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年
テーマと目的	外傷処置の基本的技術、超音波検査、手術手技(関節鏡・マイクロサージャリー技術)を実習する		
講義計画	関節鏡の手技を実際のモデルを使用して行う(整形外科研究室にて) 顕微鏡での神経、血管縫合の基礎を縫合キットやラットを使用して行う 超音波検査を実際の機械を使用して、その手技を習得する		
達成目標	1. 関節鏡・超音波検査の基本的な手技と方法を理解し、説明できる 2. 神経・血管縫合の基本的な手技と方法を理解し、説明できる		
教科書・参考書	1. 整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社) 2. 整形外科超音波診断マニュアル(MB orthopaedics)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	関節鏡の歴史	1	マイクロサージャリー手技の基本(1)
2	関節鏡の操作の基本	2	マイクロサージャリー手技の基本(2)
3	膝関節鏡(1)の実際	3	マイクロサージャリー手技の基本(3)
4	膝関節鏡(2)の実際	4	神経縫合の実際(1)
5	膝関節鏡(3)の実際	5	神経縫合の実際(2)
6	膝関節鏡(4)の実際	6	神経縫合の実際(3)
7	肩関節鏡(1)の実際	7	血管縫合の実際(1)
8	肩関節鏡(2)の実際	8	血管縫合の実際(2)
9	肩関節鏡(3)の実際	9	血管縫合の実際(3)
10	肘関節鏡(1)の実際	10	血管縫合の実際(4)
11	肘関節鏡(2)の実際	11	超音波検査の基本
12	手関節鏡(1)の実際	12	超音波検査の実際
13	手関節鏡(2)の実際	13	超音波検査の実際
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科疾患・外傷の手術法・適応概論 (I)		必修/選択 必修
担当教員	仁木久照	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて、基本的な手術適応、治療法を理解する		
講義計画	手術症例検討会で患者の病状経過、手術法、合併症の計画を立て、検討する。		
達成目標	1. 基本的には外傷、疾患の手術法、合併症について説明できる。 2. 患者の病態に基づいた管理を計画できる。		
教科書・参考書	1. 片山整形外科手術書(南江堂) 2. 整形外科医のための手術解剖学図説		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講 義 内 容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	整形外科手術症例検討会(1)	1	整形外科手術症例検討会(1)
2	整形外科手術症例検討会(2)	2	整形外科手術症例検討会(2)
3	整形外科手術症例検討会(3)	3	整形外科手術症例検討会(3)
4	整形外科手術症例検討会(4)	4	整形外科手術症例検討会(4)
5	整形外科手術症例検討会(5)	5	整形外科手術症例検討会(5)
6	整形外科手術症例検討会(6)	6	整形外科手術症例検討会(6)
7	整形外科手術症例検討会(7)	7	整形外科手術症例検討会(7)
8	整形外科手術症例検討会(8)	8	整形外科手術症例検討会(8)
9	整形外科手術症例検討会(9)	9	整形外科手術症例検討会(9)
10	整形外科手術症例検討会(10)	10	整形外科手術症例検討会(10)
11	整形外科手術症例検討会(11)	11	整形外科手術症例検討会(11)
12	整形外科手術症例検討会(12)	12	整形外科手術症例検討会(12)
13	整形外科手術症例検討会(13)	13	整形外科手術症例検討会(13)
14	整形外科手術症例検討会(14)	14	整形外科手術症例検討会(14)
15	整形外科手術症例検討会(前期まとめ)	15	整形外科手術症例検討会(後期まとめ)

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科疾患・外傷の手術法・適応概論(Ⅱ)		必修/選択 必修
担当教員	仁木久照	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	症例に基づいて、整形外科全般の疾患・外傷の手術適応、治療法を理解する		
講義計画	手術症例検討会で患者の病状経過、手術法、合併症の計画を立て、検討する。		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な外傷、疾患の手術法、合併症について説明できる。 2. 患者の病態に基づいた管理を計画できる。 3. 保存療法の限界と適応を説明できる。 		
教科書・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最新整形外科学体系(中山書店) 2. 整形外科医のための手術解剖学図説 3. 神中整形外科学(南山堂) 		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	整形外科手術症例検討会(1)	1	整形外科手術症例検討会(1)
2	整形外科手術症例検討会(2)	2	整形外科手術症例検討会(2)
3	整形外科手術症例検討会(3)	3	整形外科手術症例検討会(3)
4	整形外科手術症例検討会(4)	4	整形外科手術症例検討会(4)
5	整形外科手術症例検討会(5)	5	整形外科手術症例検討会(5)
6	整形外科手術症例検討会(6)	6	整形外科手術症例検討会(6)
7	整形外科手術症例検討会(7)	7	整形外科手術症例検討会(7)
8	整形外科手術症例検討会(8)	8	整形外科手術症例検討会(8)
9	整形外科手術症例検討会(9)	9	整形外科手術症例検討会(9)
10	整形外科手術症例検討会(10)	10	整形外科手術症例検討会(10)
11	整形外科手術症例検討会(11)	11	整形外科手術症例検討会(11)
12	整形外科手術症例検討会(12)	12	整形外科手術症例検討会(12)
13	整形外科手術症例検討会(13)	13	整形外科手術症例検討会(13)
14	整形外科手術症例検討会(14)	14	整形外科手術症例検討会(14)
15	整形外科手術症例検討会(前期まとめ)	15	整形外科手術症例検討会(後期まとめ)

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学		
講義題目	整形外科外傷学概論(Ⅰ)		必修/選択 必修		
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435		
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	代表的な骨折、外傷、関節外傷の基本的診察法と治療の原則を理解する				
講義計画	実際の症例、X線所見から代表的な骨折、外傷、関節外傷の病態を検討する。				
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の外傷の診断と治療の要点を説明できる 2. 開放骨折の初期治療の要点を説明できる				
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間				
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席◎)	後期(回)	内容	(出席◎)
1	骨折の病理(1)		1	肩反復性脱臼の病態・治療	
2	骨折の病理(2)		2	モンテジヤ骨折の病態・治療	
3	開放骨折の初期治療(1)		3	ガレアジイ骨折の病態・治療	
4	開放骨折の初期治療(2)		4	股関節脱臼の病態・治療	
5	局所救急処置の基本		5	大腿骨頸部骨折の病態・治療(1)	
6	鎖骨骨折の病態・治療		6	大腿骨頸部骨折の病態・治療(2)	
7	腕神経叢麻痺の病態・治療		7	大腿骨頸部骨折の病態・治療(3)	
8	上腕骨骨折の病態・治療		8	大腿骨頸部骨折の病態・治療(4)	
9	上腕骨顆上骨折の病態・治療		9	大腿骨頸部骨折の病態・治療(5)	
10	上腕骨外顆骨折の病態・治療		10	大腿骨骨折の病態・治療	
11	前腕骨骨折の病態・治療		11	小児大腿骨頸部骨折の病態・治療	
12	橈骨遠位端骨折の病態・治療(1)		12	膝蓋骨骨折の病態・治療	
13	橈骨遠位端骨折の病態・治療(2)		13	大腿骨骨折顆上の病態・治療	
14	肩鎖関節脱臼の病態・治療		14	予備日	
15	前期のまとめ(総合討論と発表)		15	後期のまとめ(総合討論と発表)	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科外傷学概論(Ⅱ)		必修/選択 必修
担当教員	仁木久照	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	代表的な骨折、外傷、関節外傷の基本的診察法と治療の原則を理解する		
講義計画	実際の症例、X線所見から代表的な骨折、外傷、関節外傷の病態を検討する。		
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の外傷の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 開放骨折の初期治療と機能再建法について説明できる		
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	下腿骨骨折の病態・治療	1	舟状骨骨折の病態・治療
2	足関節骨折の病態・治療	2	手指骨折の病態・治療
3	アキレス腱断裂の病態・治療	3	指屈筋腱断裂の病態・治療(1)
4	距骨骨折の病態・治療	4	指屈筋腱断裂の病態・治療(2)
5	胸郭外傷の病態・治療	5	指屈筋腱断裂の病態・治療(3)
6	頸椎外傷の病態・治療	6	伸筋腱断裂の病態・治療
7	胸椎外傷の病態・治療	7	切断指の病態・治療
8	腰椎外傷の病態・治療	8	末梢神経損傷の病態・治療
9	頸椎捻挫の病態・治療	9	血管損傷の病態・治療
10	骨盤骨折の病態・治療(1)	10	脊髄損傷の病態・治療(1)
11	骨盤骨折の病態・治療(2)	11	脊髄損傷の病態・治療(2)
12	骨盤骨折の病態・治療(3)	12	脊髄損傷の病態・治療(3)
13	骨盤骨折の病態・治療(4)	13	分娩麻痺の病態・治療
14	手の外科外傷の病態	14	予備日
15	前期のまとめ(総合討論と発表)	15	後期のまとめ(総合討論と発表)

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科疾患総論(Ⅰ)		必修/選択 必修
担当教員	赤澤 努	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて基本的疾患の病態を理解する		
講義計画	整形外科学の基本的疾患(感染、代謝、系統、退行性疾患、リウマチ性疾患など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する		
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる		
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	骨の生理・構造・生化学(1)	1	筋肉の構造
2	骨の生理・構造・生化学(2)	2	筋肉の生理
3	骨の生理・構造・生化学(3)	3	筋肉の生化学
4	骨の生理・構造・生化学(4)	4	神経の構造
5	関節の構造と生化学(1)	5	神経の生理
6	関節の構造と生化学(2)	6	神経の生化学
7	関節の構造と生化学(3)	7	整形外科診断学(1)
8	関節の構造と生化学(4)	8	整形外科診断学(2)
9	骨・関節の病態生理(1)	9	整形外科診断学(3)
10	骨・関節の病態生理(2)	10	整形外科治療学(保存1)
11	骨・関節の病態生理(3)	11	整形外科治療学(保存2)
12	骨・関節の病態生理(4)	12	整形外科治療学(観血1)
13	骨の発育	13	整形外科治療学(観血2)
14	骨の再生	14	整形外科治療学(観血3)
15	前期のまとめ(総合討論と発表)	15	後期のまとめ(総合討論と発表)

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科疾患総論(Ⅱ)		必修/選択 必修
担当教員	赤澤 努	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	症例に基づいて代表的、まれな疾患の病態を理解する		
講義計画	整形外科学の基本的疾患(感染、代謝、系統、退行性疾患、リウマチ性疾患など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する		
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる		
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	骨・関節の感染症(1)	1	骨系統疾患(1)
2	骨・関節の感染症(1)	2	骨系統疾患(1)
3	骨・関節の感染症(1)	3	先天性疾患(1)
4	骨・関節の感染症(1)	4	先天性疾患(2)
5	リウマチとその類似疾患(1)	5	先天性疾患(3)
6	リウマチとその類似疾患(2)	6	骨腫瘍(1)
7	リウマチとその類似疾患(3)	7	骨腫瘍(2)
8	代謝疾患	8	骨腫瘍(3)
9	退行性疾患(1)	9	軟部腫瘍(1)
10	退行性疾患(2)	10	軟部腫瘍(2)
11	四肢循環障害(1)	11	麻痺性疾患(1)
12	四肢循環障害(2)	12	麻痺性疾患(2)
13	阻血性疾患(1)	13	筋疾患(1)
14	阻血性疾患(2)	14	筋疾患(2)
15	前期のまとめ・討議	15	後期のまとめ・討議

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科疾患各論(Ⅰ)		必修/選択 必修
担当教員	鳥居良昭	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	症例に基づいて基本的疾患の詳しい病態と治療法を理解する		
講義計画	整形外科学の基本的疾患(関節・脊椎・脊髄・スポーツ損傷など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する		
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる		
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	骨髄炎の病態・治療	1	ペルテス病の病態・治療
2	化膿性関節の病態・治療	2	キーンベック病の病態・治療
3	骨・関節結核の病態・治療	3	他の骨端症の病態・治療
4	関節リウマチの病態・治療	4	レイノー病の病態・治療
5	痛風の病態・治療	5	閉塞性動脈硬化症の病態・治療
6	関節ねずみの病態・治療	6	肘部管症候群の病態・治療
7	血友病性関節症の病態・治療	7	ギオン管症候群の病態・治療
8	シャルコー関節の病態・治療	8	手根管症候群の病態・治療
9	骨肉腫の病態・治療	9	前・後骨間神経症候群の病態・治療
10	骨巨細胞腫の病態・治療	10	足根管症候群の病態・治療
11	ユーイング肉腫の病態・治療	11	骨形成不全の病態・治療
12	転移性骨腫瘍の病態・治療	12	骨軟化症の病態・治療
13	類骨骨腫の病態・治療	13	くる病の病態・治療
14	骨粗鬆症の病態・治療	14	筋性斜頸の病態・治療
15	前期のまとめ・討議	15	後期のまとめ・討議

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科疾患各論(Ⅱ)		必修/選択 必修
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	症例に基づいて代表的、まれな疾患の病態を理解する		
講義計画	整形外科学の基本的疾患(関節・脊椎・脊髄・スポーツ損傷など)の症例を通じて病態を理解し、治療法を検討する		
達成目標	1. 上肢・下肢・体幹の疾患の診断と治療の要点を説明し、機能再建法を説明できる 2. 実際の症例の診断、適応、治療について説明できる		
教科書・参考書	1. 神中整形外科学(南山堂) 2. 最新整形外科学体系(中山書店)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	骨粗鬆症の病態・治療(1)	1	大腿骨頭壊死の病態・治療
2	骨粗鬆症の病態・治療(2)	2	変形性膝関節症の病態・治療(1)
3	脳性麻痺の病態・治療	3	変形性膝関節症の病態・治療(2)
4	変形性脊椎症の病態・治療	4	内反足の病態・治療
5	頸髄症の病態・治療	5	扁平足の病態・治療
6	椎間板ヘルニアの病態・治療	6	変形性足関節症の病態・治療
7	腰椎すべり症の病態・治療	7	スポーツ障害の病態・治療
8	側彎症の病態・治療	8	化学療法の実際
9	脊髄腫瘍の病態・治療	9	脊柱管狭窄症の病態・治療(1)
10	肩関節脱臼の病態・治療	10	脊柱管狭窄症の病態・治療(2)
11	肩周炎の病態・治療	11	予備日
12	テニス肘の病態・治療	12	予備日
13	先天性股関節脱臼の病態・治療	13	整形疾患全体の病態・治療
14	変形性股関節症の病態・治療	14	後期のまとめ・討議
15	前期のまとめ・討議	15	後期のまとめ・討議

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	リハビリテーション医学概論(Ⅰ)		必修/選択 必修
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	1年
テーマと目的	整形外科に関するリハビリテーションの概念・適応を理解する		
講義計画	整形外科学の基本的疾患・外傷の症例を通じてリハビリテーションの概念と適応を理解し、社会復帰までの管理を検討する		
達成目標	1. 症例におけるリハビリテーションの適応と医師の役割を説明できる 2. 日常生活動作の評価と要介護患者の退院計画が立案できる		
教科書・参考書	1. 現代リハビリテーション医学(千野直一編、金原出版) 2. 義肢装具のチェックポイント第6版(医学書院)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	リハビリテーション医学の定義	1	運動障害の評価(1)
2	リハビリテーション医学の歴史	2	運動障害の評価(2)
3	リハビリテーション医療関連職	3	疼痛の評価
4	機能解剖(上肢)	4	日常生活動作の評価(1)
5	機能解剖(下肢)	5	日常生活動作の評価(2)
6	機能解剖(体幹)	6	治療学(筋力増強訓練)
7	反射	7	治療学(持久力訓練)
8	姿勢	8	治療学(関節可動域訓練)
9	歩行	9	物理療法(1)
10	上肢の動作	10	物理療法(2)
11	筋電図(1)	11	物理療法(3)
12	筋電図(2)	12	バイオフィードバック療法
13	筋電図(3)	13	牽引療法
14	前期総合討論(1)	14	後期総合討論(1)
15	前期総合討論(2)	15	後期総合討論(2)

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	リハビリテーション医学概論(Ⅱ)		必修/選択 必修
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435
単位数	2単位(前期1、後期1)	履修年次	2年
テーマと目的	整形外科に関するリハビリテーションの概念・適応を理解する		
講義計画	整形外科学の基本的疾患・外傷の症例を通じてリハビリテーションの概念と適応を理解し、社会復帰までの管理を検討すること、さらに整形外科要介護患者の退院計画を立案する		
達成目標	1. 症例におけるリハビリテーションの適応と医師の役割を説明できる 2. 日常生活動作の評価と要介護患者の退院計画が立案できる 3. 脊髄損傷後のリハビリテーション計画の立案と退院計画を説明できる		
教科書・参考書	1. 現代リハビリテーション医学(千野直一編、金原出版) 2. 義肢装具のチェックポイント第6版(医学書院)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席と講義での発表または受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回) 内 容 (出席Ⓞ)
1	水治療		1 リハビリテーション器械(1)(車椅子)
2	電気治療		2 リハビリテーション器械(2)(車椅子)
3	神経ブロック		3 リハビリテーション各論(脳性麻痺)
4	歩行訓練		4 リハビリテーション各論(脊髄損傷1)
5	作業療法(1)		5 リハビリテーション各論(脊髄損傷2)
6	作業療法(2)		6 リハビリテーション各論(脊髄損傷3)
7	作業療法(3)		7 リハビリテーション各論(脊髄損傷4)
8	作業療法(4)		8 切断
9	義肢・装具療法(1)		9 スポーツ外傷とリハビリテーション
10	義肢・装具療法(2)		10 在宅リハビリテーション
11	義肢・装具療法(3)		11 社会保障
12	義肢・装具療法(4)		12 身体障害診断書の書き方
13	前期総合討論(1)		13 後期総合討論(1)
14	前期総合討論(2)		14 後期総合討論(2)
15	前期総合討論(3)		15 後期総合討論(3)

講義担当者承認

Ⓞ

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学	
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(Ⅱ)		必修/選択	選択
担当教員	赤澤 努	担当教員連絡先	内線3435	
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年	
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する			
講義計画	血管縫合の基礎を縫合キットやラットを使用して行う			
達成目標	神経・血管縫合の基本的な手技と方法を理解し、説明できる。			
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間			
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	マイクロサージャリー手技の基本(1)	1	マイクロサージャリー手技の基本(4)	
2	マイクロサージャリー手技の基本(2)	2	マイクロサージャリー手技の基本(5)	
3	マイクロサージャリー手技の基本(3)	3	マイクロサージャリー手技の基本(6)	
4	神経縫合の実際(1)	4	神経縫合の実際(4)	
5	神経縫合の実際(2)	5	神経縫合の実際(5)	
6	神経縫合の実際(3)	6	神経縫合の実際(6)	
7	血管縫合の実際(1)	7	血管縫合の実際(8)	
8	血管縫合の実際(2)	8	血管縫合の実際(9)	
9	血管縫合の実際(3)	9	血管縫合の実際(10)	
10	血管縫合の実際(4)	10	血管縫合の実際(11)	
11	血管縫合の実際(5)	11	血管縫合の実際(12)	
12	血管縫合の実際(6)	12	血管縫合の実際(13)	
13	血管縫合の実際(7)	13	血管縫合の実際(14)	
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)	
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(13)

義コード	※	専攻分野	整形外科学	
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(Ⅲ)		必修/選択	選択
担当教員	松下和彦	担当教員連絡先	内線3435	
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年	
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する			
講義計画	血管縫合の基礎を縫合キットやラットを使用して行う			
達成目標	神経・血管縫合の基本的な手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。			
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間			
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	マイクロサージャリー手技の基本(1)	1	マイクロサージャリー手技の基本(4)	
2	マイクロサージャリー手技の基本(2)	2	マイクロサージャリー手技の基本(5)	
3	マイクロサージャリー手技の基本(3)	3	マイクロサージャリー手技の基本(6)	
4	神経縫合の実際(1)	4	神経縫合の実際(4)	
5	神経縫合の実際(2)	5	神経縫合の実際(5)	
6	神経縫合の実際(3)	6	神経縫合の実際(6)	
7	血管縫合の実際(1)	7	血管縫合の実際(8)	
8	血管縫合の実際(2)	8	血管縫合の実際(9)	
9	血管縫合の実際(3)	9	血管縫合の実際(10)	
10	血管縫合の実際(4)	10	血管縫合の実際(11)	
11	血管縫合の実際(5)	11	血管縫合の実際(12)	
12	血管縫合の実際(6)	12	血管縫合の実際(13)	
13	血管縫合の実際(7)	13	血管縫合の実際(14)	
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)	
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(IV)		必修/選択 選択
担当教員	鳥居良昭	担当教員連絡先	内線3435
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	2年
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する		
講義計画	血管縫合の応用を縫合キットやラットを使用して行う		
達成目標	神経・血管縫合の応用手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。		
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	マイクロサージャリー手技の応用(1)	1	マイクロサージャリー手技の応用(4)
2	マイクロサージャリー手技の応用(2)	2	マイクロサージャリー手技の応用(5)
3	マイクロサージャリー手技の応用(3)	3	マイクロサージャリー手技の応用(6)
4	神経縫合の実際(1)	4	神経縫合の実際(4)
5	神経縫合の実際(2)	5	神経縫合の実際(5)
6	神経縫合の実際(3)	6	神経縫合の実際(6)
7	血管縫合の実際(1)	7	血管縫合の実際(8)
8	血管縫合の実際(2)	8	血管縫合の実際(9)
9	血管縫合の実際(3)	9	血管縫合の実際(10)
10	血管縫合の実際(4)	10	血管縫合の実際(11)
11	血管縫合の実際(5)	11	血管縫合の実際(12)
12	血管縫合の実際(6)	12	血管縫合の実際(13)
13	血管縫合の実際(7)	13	血管縫合の実際(14)
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(15)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(V)		必修/選択 選択
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	2年
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する		
講義計画	血管縫合の応用を縫合キットやラットを使用して行う		
達成目標	神経・血管縫合の応用手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。		
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	マイクロサージャリー手技の実際(1)	1	マイクロサージャリー手技の実際(4)
2	マイクロサージャリー手技の実際(2)	2	マイクロサージャリー手技の実際(5)
3	マイクロサージャリー手技の実際(3)	3	マイクロサージャリー手技の実際(6)
4	神経縫合の実際(1)	4	神経縫合の実際(4)
5	神経縫合の実際(2)	5	神経縫合の実際(5)
6	神経縫合の実際(3)	6	神経縫合の実際(6)
7	血管縫合の実際(1)	7	血管縫合の実際(8)
8	血管縫合の実際(2)	8	血管縫合の実際(9)
9	血管縫合の実際(3)	9	血管縫合の実際(10)
10	血管縫合の実際(4)	10	血管縫合の実際(11)
11	血管縫合の実際(5)	11	血管縫合の実際(12)
12	血管縫合の実際(6)	12	血管縫合の実際(13)
13	血管縫合の実際(7)	13	血管縫合の実際(14)
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏名	

平成30年度講義シラバス(16)

講義コード	※	専攻分野	整形外科学
講義題目	整形外科外傷学概論 実習(VI)		必修/選択 選択
担当教員	平野貴章	担当教員連絡先	内線3435
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	2年
テーマと目的	マイクロサージャリー技術を実習する		
講義計画	血管縫合の応用を縫合キットやラットを使用して行う		
達成目標	神経・血管縫合の応用手技と方法を理解し、説明と縫合が実際にできる。		
教科書・参考書	整形外科医のためのマイクロサージャリー(メジカルビュー社)		
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1時間		
成績評価法	出席・実習の受講態度による総合評価		
講義内容			
前期(回)	内容 (出席◎)	後期(回)	内容 (出席◎)
1	マイクロサージャリー皮弁の実際(1)	1	マイクロサージャリー皮弁の実際(4)
2	マイクロサージャリー皮弁の実際(2)	2	マイクロサージャリー皮弁の実際(5)
3	マイクロサージャリー皮弁の実際(3)	3	マイクロサージャリー皮弁の実際(6)
4	皮弁作成の実際(1)	4	皮弁作成の実際(11)
5	皮弁作成の実際(2)	5	皮弁作成の実際(12)
6	皮弁作成の実際(3)	6	皮弁作成の実際(13)
7	皮弁作成の実際(4)	7	皮弁作成の実際(14)
8	皮弁作成の実際(5)	8	皮弁作成の実際(15)
9	皮弁作成の実際(6)	9	皮弁作成の実際(16)
10	皮弁作成の実際(7)	10	皮弁作成の実際(17)
11	皮弁作成の実際(8)	11	皮弁作成の実際(18)
12	皮弁作成の実際(9)	12	皮弁作成の実際(19)
13	皮弁作成の実際(10)	13	皮弁作成の実際(20)
14	前期のまとめ(1)	14	後期のまとめ(1)
15	前期のまとめ(2)	15	後期のまとめ(2)

講義担当者承認 ◎